



もっと

知りたい! 日本のフェアトレード

フェアトレードを通して、私たちの身の回りの製品がどこでどのように生産されているのか、また私たちの日々の買い物にどのような意味があるのか、理解できましたか? ここでは、もっとたくさんのフェアトレードのこと、そして消費生活のことを学べるインターネットのホームページを紹介いたします。ぜひアクセスし、もっとたくさんのことを知ってください。



フェアトレードに関すること

●フェアトレード・ラベル・ジャパン

国際フェアトレード認証ラベルのライセンス業務、フェアトレードの普及啓発活動を行うNPO法人です。

<https://www.fairtrade-jp.org/>



●日本フェアトレード・フォーラム

「フェアトレードタウン運動」の国内での普及を目指す市民団体です。

<https://fairtrade-forum-japan.org/>



●浜松フェアトレードタウン・ネットワーク

多様性に富んだ浜松市にて、フェアトレードの推進を通じて地域づくりに取り組みながらまちづくりを推進する団体です。

<http://h-fairtrade.net/>



児童労働に関すること

●世界の子どもを児童労働から守るNGO ACE(エース)

1997年に学生有志が設立した、児童労働の撤廃と予防に取り組む国際協力NGOです。

<http://acejapan.org/>



●児童労働ネットワーク (CL-Net)

児童労働に問題意識を持ち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指すNGO、労働組合などが加盟するネットワークです。

<https://cl-net.org/>



消費者教育に関すること

●消費者教育ポータルサイト(消費者庁)

さまざまな消費者教育の教材を見ることができます。

<https://www.kportal.caa.go.jp/index.php>



●消費者教育支援センター

消費者教育についての総合的な情報を入手できます。

<http://www.consumer-education.jp/>



浜松市

発行 令和3年2月 浜松市市民生活課 暮らしのセンター

所在地 〒432-8032 浜松市中区海老塚町51-1

電話 053-457-2635

FAX 053-457-2814

ホームページ <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kurashi/>

監修 横浜国立大学 名誉教授 西村 隆男

フェアトレードについて学び、豊かな消費者市民社会を目指すのじゃ!



出世大名
家康くん

はままつeライフ

検索



浜松市

改訂版

ぼくたち・私たちの
消費行動が世界を変える!

フェアトレード

学ぼう!

広げよう!



中学生もみんな消費者!

お金を支払って商品やサービスを購入し、使用する人のことを「消費者」と言います。レストランでご飯を食べる、コンビニエンスストアでお菓子を買う、運賃を支払ってバスや電車に乗る……これらは全て「消費」であり、中学生もまた「消費者」の一人です。



消費の背景で起きている問題を知ろう



私たちの周りにはものがあふれていて、お金を払えば好きなものを買うことができます。それは便利なことですが、一方で、私たちは自分の持ち物や口にする食べ物が、どこでどのようにつくられているのか、よく分からなくなっています。

こうした消費者にとっての情報の不足が、消費者トラブルや食品偽装など、消費者問題を引き起こす要因となっています。また、私たちが好きなものを好きなだけ手に入れられる一方で、世界を見回すと水や食べ物が十分ではない人があることも忘れてはいけません。こうした現状から、安全、安心で豊かな消費生活を営むとともに公正な社会を実現するために、消費者の自立を支援することを旨とした教育が重要となっています。

消費者が主役の社会「消費者市民社会」へ

私たち消費者に求められる役割は、「消費者市民社会」の実現です。消費者市民社会とは、消費者一人ひとりが社会の一員としての自覚を持ち、よりよい社会を実現するために、自分の消費行動について考え、商品やサービスを適切に選択できる社会のことです。

自分のことだけでなく、社会全体のこと、そして未来の地球のことまで考えて行動することが、今、私たち消費者一人ひとりに求められています。



消費者の「権利」と「責任」

消費者は個人ですが、企業は組織です。商品やサービスに問題があって消費者が企業に不満を伝えても、個人の消費者が弱い立場になってしまいがちです。そこで消費者を支援し、消費者の権利を尊重するよう企業や国の責任を定めた法律が「消費者基本法」で、消費者の8つの権利が認められています。また私たち消費者も、自ら学び行動する、「自立した消費者」を目指すことが求められています。それが消費者の5つの責任です。

消費者の8つの権利

Grid of 8 consumer rights: 1. Right to basic needs, 2. Right to safe environment, 3. Right to safety, 4. Right to choice, 5. Right to necessary information, 6. Right to consumer education, 7. Right to consumer opinion reflection, 8. Right to quick relief for victims.

消費者の5つの責任

Grid of 5 consumer responsibilities: 1. Responsibility for information, 2. Responsibility for fair trade, 3. Responsibility for social impact, 4. Responsibility for environmental impact, 5. Responsibility for solidarity.

消費行動は社会に影響を与える

消費は個人の欲求を満たすだけの行動ではありません。商品を選ぶ、使う、捨てる、またはリサイクルするという各場面で、社会に影響を与えます。

たとえば、私たち消費者がただ「安いもの」を求めれば、「少し高くてもよいもの」は売れず、その商品をつくる人はなくなってしまいます。一方で、私たちが安全に配慮されたよい商品を選択すれば、よい商品が市場に増えることになります。

自分のことだけでなく、社会にどのような影響を与えるのか考えながら商品を選ぶといいですね。



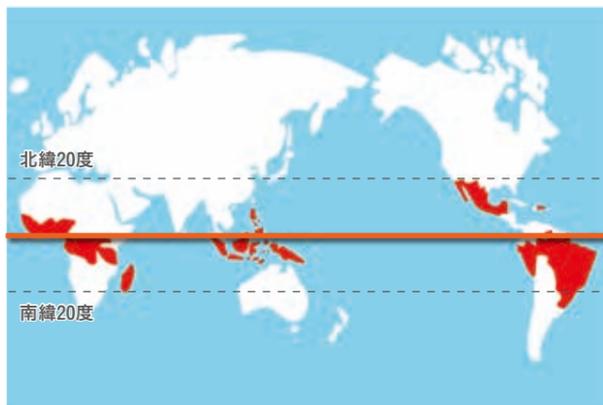
チョコレートのこと、どのくらい知ってる？

甘くておいしいチョコレートは、スーパーやコンビニで簡単に買えるとても身近な食べ物です。しかしチョコレートがどこでどのようにして作られ、私たちの手元に届くか知っていますか？ 実はチョコレートの原料であるカカオは、日本から遠く離れた国で作られているものなのです。



チョコレートが手元に届くまで

チョコレートの原料は「カカオ」という植物の実の中にある種子、「カカオ豆」です。カカオは熱帯植物で、主に赤道をはさみ南緯・北緯20度の範囲、年間平均気温27度以上の高温・多湿地帯という条件の、ごくせまい地域で栽培されています。主な産地は西アフリカ、東南アジア、中南米です。



※主に赤く表示された国でカカオが栽培されています。

背後にある問題 児童労働

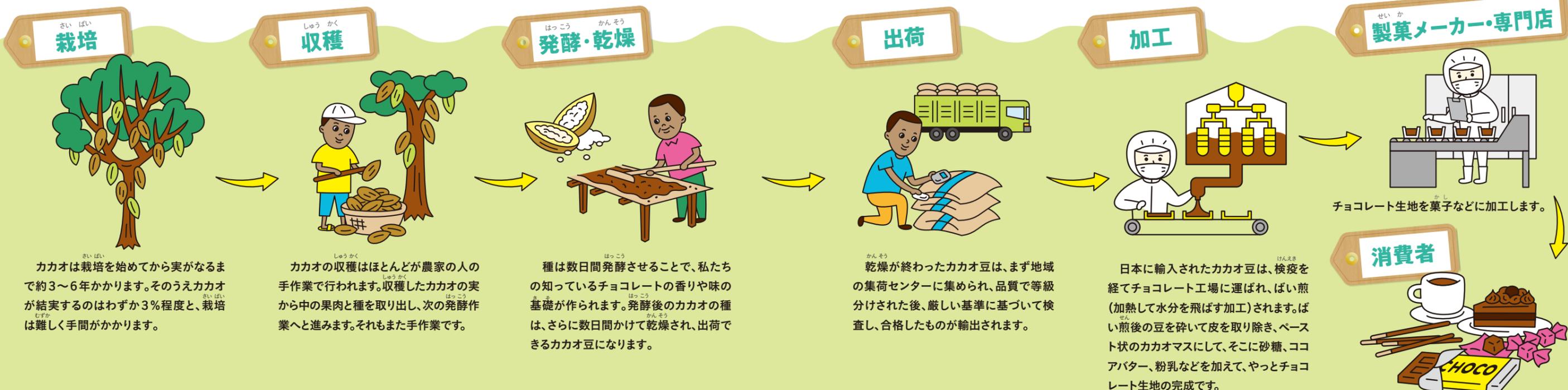
カカオ農園は小規模な家族経営であることが多く、子供が重要な労働力となっている場合があります。児童労働は子供の勉強の機会を奪うだけでなく、農薬の散布や刃物の使用などにより子供の身体に危険をもたらすことも問題です。

背後にある問題 環境破壊

先進国でカカオ豆の消費量が急激に増えると、生産国ではカカオを増産するために森を切り開くので、多くの森林が破壊されます。また多量の農業をまくことで土壌や水が汚染され、その土地で働く労働者の健康を害する恐れがあります。

背後にある問題 貧困

カカオ農家の多くは、カカオの生産だけで収入を得て生活しているため、天候不順やカカオの病気により生産量が落ちると、すぐに貧困に陥ってしまいます。またカカオ豆は、生産地から遠く離れたロンドンとニューヨークで取引され、価格が決まります。産地の天候や作柄(生育や収穫の状態)によって価格が変動するのはある程度しかありませんが、先進国のチョコレート消費の状況など、産地とは関係ないことでも価格が大きく変動し、生産者の生活を脅かしています。



激しい国際競争の世界では、企業の利益を増やすために生産にかかる費用をできるだけ低くしようとすると、働いている人たちに支払われる賃金が非常に少なくなる、という問題が起きます。そうした問題を解決するために始まったのが「フェアトレード」という世界的な運動です。

fair trade 公平な 貿易



フェアトレード団体 (輸入業者)

フェアトレード団体(輸入業者)は生産者と一緒商品開発し、技術指導を行い、できあがった商品を輸入して販売します。その売り上げを、再び生産者への支援活動や商品の仕入れ資金として使うことで、継続的に生産者の自立を支援しています。

発展途上国で作られた作物や製品を、「適正な価格」で「継続的に取引」することによって、立場の弱い発展途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」です。

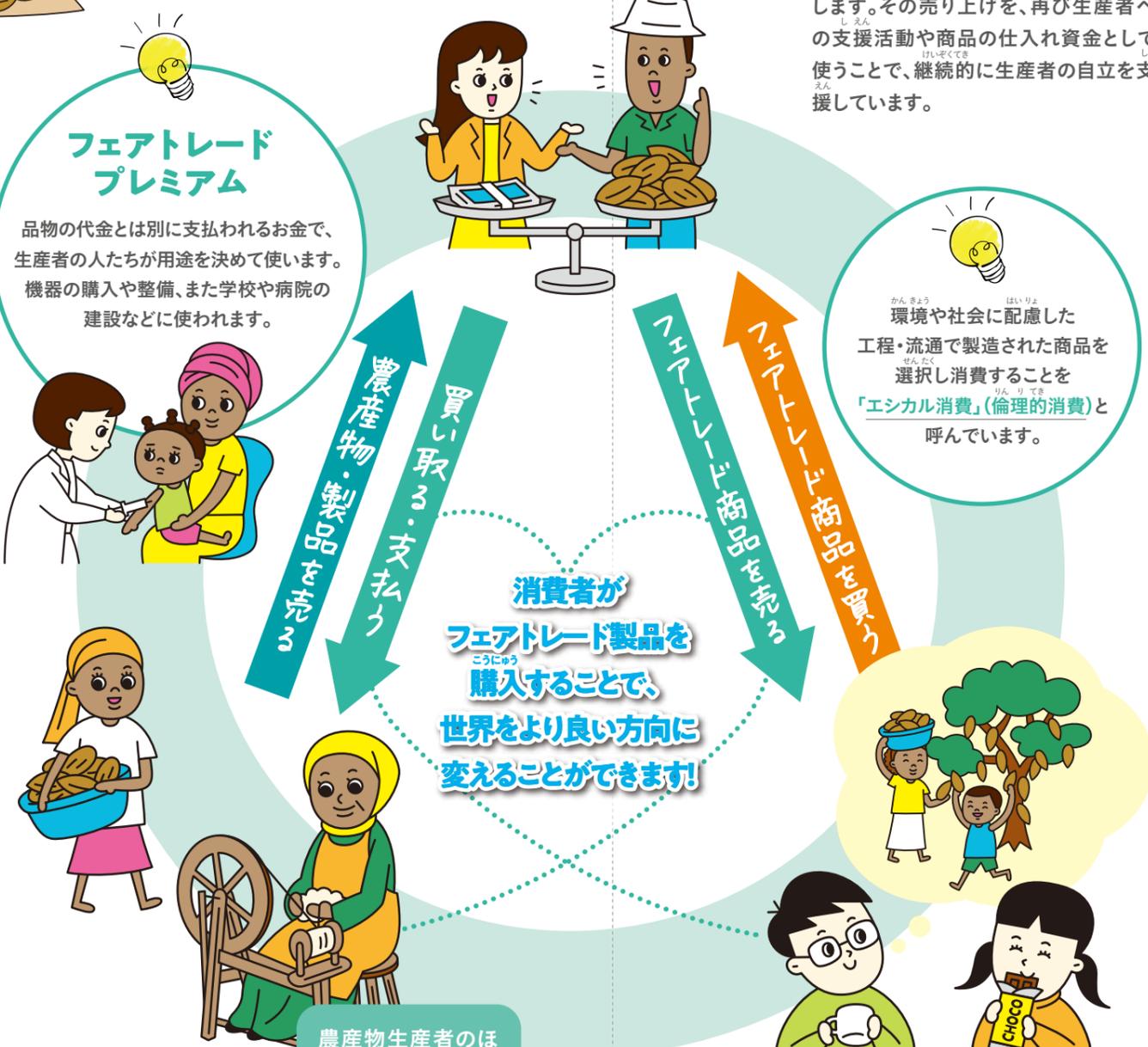
フェアトレード10の原則 (世界フェアトレード連盟(WFTO)による)

- 1 生産者に仕事の機会を提供する
- 2 事業の透明性を保つ
- 3 公正な取引を実践する
- 4 生産者に公正な対価を支払う
- 5 児童労働および強制労働を排除する
- 6 性別に関わりなく平等な機会を提供する
- 7 安全で健康的な労働条件を守る
- 8 生産者の資質の向上を目指す
- 9 フェアトレードを推進する
- 10 環境に配慮する

フェアトレードの歴史

フェアトレード運動は、1946年、アメリカのグループがプエルトリコの女性が作った手芸品を購入したのが初めといわれ、1950年代にヨーロッパにも広がりました。初期は手芸品が中心でしたが、1973年にオランダの団体がグアテマラからコーヒーを輸入したことをきっかけに、その後、紅茶や砂糖などの食品へと商品の幅が広がっていきました。

日本では、1974年から「シャプラニール」という団体がフェアトレードの活動に取り組みました。



生産者

生産品を適正な価格で販売し、収入を得ることができるため、子供の教育や地域の環境を自分たちの力で改善することができます。環境保護やよりよいものを作るための知識・技術を学べます。

消費者

「より良い製品」を「適正な価格」で、「継続的に買う」ことができます。

ヨーロッパを中心にフェアトレードが広がっています!

世界に広がるフェアトレード

(フェアトレード・ラベル・ジャパンHPより)

世界のフェアトレード
認証製品市場規模



2009~2017年の9年間で
約2.5倍に拡大しています!



34億ユーロ
約4,760億円
2009年

※1ユーロ140円換算



85億ユーロ
約1兆742億円
2017年

※1ユーロ126円換算

日本のフェアトレード 認証製品市場は?

9年間で約8倍!

約14.9億円
2009年

約119億円
2017年

これは、世界のフェアトレード市場のわずか1.1%です! 経済全体の規模と比べると、あまりにも少ないのが現状です!





フェアトレード商品の種類

「フェアトレード商品」とひとことで言っても、いくつかの種類があります。日本では、主に3種類に分けられます。

国際フェアトレード認証ラベルがついている商品

具体的に設定されたフェアトレード基準を守った製品だけが認証ラベルを貼ることができます。フェアトレード商品を専門に扱う店だけでなく、スーパーやデパートなど身近なお店にも並んでいます。



国際フェアトレード認証ラベル

世界フェアトレード連盟(WFTO)の保証を受けた団体の商品

フェアトレードを行う団体を認証する、世界フェアトレード連盟(WFTO)の保証ラベル。WFTO加盟の生産団体や販売団体が原材料から生産までWFTOが定めた「フェアトレード10の指針」を守っていることを保証しています。



GUARANTEED FAIR TRADE

団体や企業独自の基準によるフェアトレード商品

認証ラベルはありませんが、団体や企業の独自の基準により「フェアトレード」として販売している商品です。多くの場合、団体や企業が生産者と直接取引をしたり、生産者コミュニティを直接支援したりしています。

静岡県西部でフェアトレード商品を扱っているお店の一例

※お店の情報は2021年2月時点のものです。

晴天

浜松市東区有玉南町2350-4



「浜松で一番小さなフェアトレードのお店」。フェアトレードの食品のほか、服・雑貨を扱う。インドのオーガニックコットンを使ったカットソー、ネパールのお母さんたちが作ったマフラーや手袋、ベルーのアルパカストールなど一点ものばかり。

酒&FOODかとう

浜松市西区神ヶ谷町7873-1



「安全安心な食」をテーマに、昔ながらの製法を守って丁寧に作られているお酒や、無添加の味噌・醤油、オーガニック野菜などを扱う。フェアトレード商品はチョコレート、コーヒー、ワイン、オーリーブオイル等。被災地の良品を仕入れる支援も行う。

豆乃木

浜松市西区舞阪町舞阪2128-2



メキシコ産マヤビニックコーヒーの生豆、フェアトレード・オーガニックコーヒーの輸入・販売を行う。代表の杉山さんが産地に足を運び、買い付けている。焙煎は国内にて委託。オンラインショップで生豆、焙煎コーヒー、ドリッピングバッグ等を販売。

この人にお話を聞きました

ピープルツリー

フェアトレードカンパニー株式会社
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-1-16-3F
<https://www.peopletree.co.jp/>

広報・啓発担当
鈴木 啓美さん

ピープルツリーはフェアトレード専門ブランドです。WFTOに加盟するアジア、アフリカ、南米の18か国145団体(2020年)と共に、オーガニックコットンをはじめとする衣料品やアクセサリ、食品、雑貨など、できるだけその地方で採れる自然素材を用いた手仕事による商品を企画開発・販売しています。おしゃれな服、かわいい雑貨、おいしい食べもの。日々の暮らしを楽しむ中で、みんなが幸せになれる選択肢。これがピープルツリーの考える「フェアトレード」です。

Q ピープルツリーのフェアトレードの特徴は?

私たちはファッションから雑貨、食品まで幅広い商品を扱っていますが、特に衣料品に力を入れています。衣料品は、たとえば同じ生地でもトップスにしたり、ワンピースにしたり、スカートにしたりとアイテム展開をすることもできます。また、コットンを育てる人、糸にする人、布を織る人、プリントする人、縫製する人、刺繍する人...というように、工程が多いため、より多くの雇用を生むことができます。日本人が毎日着られる服(=日本で売れるもの)を企画することで、市場を開拓し、フェアトレードの普及につなげます。また継続的な発注、公正で対等な取引での支払い、デザイン・技術研修・品質管理の支援を通じて、生産者さんの可能性を高めながら(キャパシティビルディング)、持続可能な生産を支えています。

手編みリサイクルウール手袋

生産者団体「クムベッシュワール・テクニカル・スクール」(ネパール)

指先のカバーを外してボタンで留められる機能的な手袋。配色にニットさんの個性が光ります。※リサイクルウールはニットアイテムをつくる時に余った毛糸(余剰糸)を再利用した商品です。編み柄のパターンが同じでも、雰囲気違って見えるのは、編み手が自由に毛糸の色を選んでいるから。カラフルなものからベーシックなものまで、どんな色の商品が来るかは届いてからのお楽しみです。



フェアトレード・ラベル・ジャパン

<https://www.fairtrade-jp.org/>

フェアトレード・ラベル・ジャパン(FLJ)は、日本における国際フェアトレード認証の製品認証や、フェアトレードの啓発活動などを行っています。国際フェアトレード認証ラベルは、その原料が生産されてから、輸出入、加工、製造工程を経て「国際フェアトレード認証製品」として完成品となるまでの全過程で、国際フェアトレードラベル機構が定めた国際フェアトレード基準が守られていることを証明しています。現在、認証製品にはコーヒー、紅茶、カカオ製品、スパイス・ハーブ、果物、ワインなどの食品のほか、切り花やサッカーボールなどもあります。



国際フェアトレード認証ラベル



ゼンショーグループの目指すもの

~次世代を担う子どもたちが拓く未来のために~



生産者と対話し生産地に寄り添うゼンショーフェアトレード

担当者が定期的に生産地に足を運び、生産者とその地域が抱える問題を自分たちの目と耳で直接調査し、『現地の人々と社会が本当に必要としている支援をより効率的におこなう』。それが、ゼンショーグループが実施している直接提携型フェアトレードです。

この取り組みの中では、生産者は労働や生産物の品質に見合った公正な対価を手に入れることができます。また、支払いに含まれる社会開発資金を、生産者が地域社会のために活用することで地域の発展に役立てられるようになっていきます。

ゼンショーグループは、この資金を「女性支援」「生活改善」「環境保全」「農業技術支援」に活用してもらっています。そして、次世代を担う子どもたちが健全で文化的な生活をおくり、しっかりとした教育を日常的に受け、その国・地域が自分たちの力で自立していけるようににも取り組んでいます。

この支援の原資となるフェアトレード紅茶やコーヒーは、ファミリーレストランのココスやビッグボーイ、パスタ専門店のジョリーパスタのドリンクバーで手軽に楽しめます。



紅茶生産者とともに(スリランカ)



収穫手伝いの様子(ペルー)

この人にお話を聞きました

シサム工房

シサム工房
〒606-8224 京都市左京区北白川追分町80-1
<https://sisam.jp/>

副代表
人見とも子さん

シサム工房は1999年に京都で生まれたフェアトレードブランドです。アジア6か国13のフェアトレードNGOと直接オリジナル商品の貿易を行い、現地の生活改善に協力しています。8つの直営店のほか、オンラインや全国300のショップへの卸を通して、フェアトレードの販売と普及を行っています。

Q シサム工房のフェアトレードの特徴は?

シサム工房では、公正な価格での「ものの売買」だけでなく、生産者が自尊心を持ち、自分たちの暮らしを選択していく力をつける仕組みがあることをフェアトレードだと考えています。そうした考えから、国際機関のWFTO(世界フェアトレード連盟)に加盟しているNGOとの提携や、国際フェアトレード認証の仕組みをとっても大切にしています。フェアトレードは気に入ったものを選ぶことで、作り手を支え、地球環境への負荷も減らせるこれからのライフスタイルです。お金の行く末を意識して、投票のようにお金の使い道を選択する人が増えれば社会は変わります。お金の使い方、今まで以上に意識してみませんか?

SISAM COFFEE 深煎り DripBox(15pack)

生産者団体「Cordillera Green Network」(フィリピン)



SISAM COFFEEは、シサムコウボウのオリジナルのフェアトレードコーヒーです。目指したのは、シンプルに「みんなが幸せになるコーヒー」であること。しっかりとした深煎りで、カカオのような甘い香り、ビターチョコレートのようなまったりとした味わい特徴です。すっきりとした飲み心地ですが、適度な飲みごたえもお楽しみ頂けます。アイスにするともっとすっきりと飲みやすいのでおすすめです!

〇〇知ってる?フェアトレードタウン?〇〇

「フェアトレードタウン」とは、「まちぐるみ」、つまり、まちの行政、企業・商店、市民団体などが一体となってフェアトレードを推進する自治体のことです。2000年にイギリスでフェアトレード運動が始まり、現在では、世界30か国、2,000以上の都市に広がっています。日本では、2011年6月に熊本市がフェアトレードタウンに認定されました。また現在も日本各地で運動が進んでいます。



フェアトレードタウン浜松



鈴木康友市長 杉山 世子さん(はままつフェアトレードタウン・ネットワーク代表)

浜松市は、日本で4番目のフェアトレードタウンです!

「はままつフェアトレードタウン・ネットワーク」をはじめ、市民の活動により、浜松市は2017年11月に「一般社団法人 日本フェアトレード・フォーラム」から熊本市、名古屋市、逗子市に続き、日本で4番目のフェアトレードタウンに認定されました。

はままつフェアトレードタウン・ネットワーク

国際社会・地域社会において、環境に過度の負担をかけず、安心安全で公正な商品の生産と流通を通して、誰もが参加できる社会づくりを目指す市民団体です。はままつフェアトレードタウン・ネットワークが中心となり、フェアトレードタウンの認定を目指してきました。

〇〇フェアトレード、エシカル消費そしてSDGsへ?〇〇

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



エシカル消費とは人や社会、地域、環境に配慮した消費行動のことで、その分かりやすい事例の一つがフェアトレードです。

SDGs(Sustainable Development Goals:エス・ディー・ジーズ)は、2015年9月に国連の「持続可能な開発サミット」で全会一致で採択された2030年までの国際目標です。

17の持続可能な開発目標の12番目は「つくる責任つかう責任」(持続可能な消費と生産の形態を確保する)です。

フェアトレードを含むエシカル消費の推進は、この目標を達成するための具体的な取組の一つであり、私たち消費者の選択によって持続可能な社会の実現に貢献することができます。

アジア初のフェアトレード大学「静岡文化芸術大学」

市内にある「公立学校法人 静岡文化芸術大学」は、大学全体でフェアトレードの推進活動に取り組んでいることが評価され、2018年に「一般社団法人日本フェアトレード・フォーラム」からアジア初のフェアトレード大学に認定されました。かねてよりフェアトレード推進活動に取り組んでいた学生サークル「りとるあーす」のほか、新たなフェアトレード商品の開発を行うプロジェクトも立ち上がっており、それぞれの代表者に活動内容を聞きました。



浜松市中区中央2丁目1-1

りとるあーす



「りとるあーす」代表
小松春海さん

Q なぜ「りとるあーす」に入ろうと思ったのですか?

大学を決める時に、フェアトレードのクラブがあることを知りました。高校時代にフェアトレードの授業を受けて興味を持っていたので、入学したら「りとるあーす」に入ろうと決めていました。2年生になり代表になると、イベントの運営で企業やお店の方と関わる機会が増え、難しいと感じることもたくさんありましたが、多くの人にフェアトレード商品を知ってもらえることができました。

Q 活動内容を教えてください。

フェアトレードを知ってもらうために、大学祭でフェアトレードカフェを開いたり、バレンタインに合わせてフェアトレードのチョコを学内で販売したりしています。2021年にフェアトレード大学認定の更新があるため、申請の手続きを大学と一緒にしました。また、アジア初のフェアトレード大学の公認クラブとして、フェアトレード大学を目指す大学から相談を受けることもあります。



大学祭への出店



バレンタインのチョコ販売

カスから生まれるプロジェクト



「カスから生まれるプロジェクト」共同代表
口ハス・アンヘラさん

Q プロジェクト立ち上げの経緯を教えてください。

大学がフェアトレード事業を進めるなか、顧問の武田先生からコストリカと共同開発で商品作りをするプロジェクトに参加しないかと声を掛けていただきました。国際協力で興味があって文芸大に入学したので、実体験としてフェアトレードを学べること、物作りに携われることができるため、迷わず参加することに決めました。ルーツがコロンビアで母国語のスペイン語が生かせるのも楽しみです。

Q プロジェクトの内容を教えてください。

コストリカにはコーヒー豆の収穫で捨てられる皮の部分を使った「カスカラティー」というものがあります。しかしあまり普及していないため、もっといい商品にするための開発を行っています。どうしたら美味しく飲めるのか、また飲む以外にも、食材として「食べる」ことはできないかなど実験・検証をしています。現地では皮が廃棄物として環境問題にもなっているので、再利用できたら素晴らしいと思います。



試作品の開発(上・下)



はままつチョコプロジェクト



「はままつチョコプロジェクト」共同代表
菅原 彩さん

Q なぜプロジェクトに参加しようと思ったのですか?

チョコレートが好きということと、国際協力で興味があり参加することにしました。チョコレートの原料となるカカオはフィリピンから輸入していて、1年生の夏にメンバーが現地に行って生産状況などの調査を行い、直接取引をしています。「はままつチョコプロジェクト」は商品開発、営業広報、デザイン部門に分かれ、私は商品開発を担当しています。

Q 活動内容を教えてください。

現在、春華堂さんとコラボして、チョコレート商品の開発をしています。アイデアを出して試作品を作り、よい商品にするため現在も研究中です。チョコ菓子に使っているピーナッツや抹茶も全て浜松市で生産されたものにこだわりました。企業や農家さんと直接お話をして取引しているので社会勉強になっています。また私たちの活動を広く知ってもらうために、シンポジウムや講演会にも参加しています。



フィリピンの現地視察



活動報告の様子